



2026年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年7月30日

上場会社名 ホウライ株式会社
コード番号 9679 URL <https://www.horai-kk.co.jp>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）小野 直樹
問合せ先責任者 （役職名）財務企画部長 （氏名）田鹿 良 TEL 03-6810-8115
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

上場取引所 東

（百万円未満切捨て）

1. 2026年9月期第3四半期の業績（2025年10月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年9月期第3四半期	4,757	12.3	487	26.0	571	14.9	379	22.2
2025年9月期第3四半期	4,237	8.2	387	△12.4	497	△15.0	310	△39.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第3四半期	90.63	—
2025年9月期第3四半期	74.19	—

（注）当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年9月期第3四半期	19,773	10,221	51.7
2025年9月期	19,706	9,865	50.1

（参考）自己資本 2026年9月期第3四半期 10,221百万円 2025年9月期 9,865百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	24.00	24.00
2026年9月期	—	0.00	—		
2026年9月期（予想）				24.00	24.00

（注1）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

（注2）当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2025年9月期については、株式分割後の配当の額を記載しております。

3. 2026年9月期の業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	6,200	1.4	630	2.1	730	△0.7	500	0.4	119.38

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期3Q	4,212,000株	2025年9月期	4,212,000株
② 期末自己株式数	2026年9月期3Q	19,888株	2025年9月期	23,925株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年9月期3Q	4,190,446株	2025年9月期3Q	4,188,126株

（注）当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(セグメント情報等の注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期貸借対照表に関する注記)	8
(四半期損益計算書に関する注記)	8
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が期待される中、緩やかな回復が続く、個人消費や設備投資にも持ち直しの動きが見られました。一方で、中東情勢やアメリカの通商政策の動向、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響から、不透明な状況が続きました。

このような状況下、当社は各事業がそれぞれの特性に応じて、商品・サービスの付加価値やブランド力を向上させる施策の推進に努めました。

当第3四半期累計期間の経営成績は、営業収益につきましては、全事業で前年同期を上回り、全体では4,757百万円（前年同期比519百万円増）となりました。営業総利益につきましては、保険事業・不動産事業・千本松牧場は前年同期を上回りましたが、ゴルフ事業は前年同期を下回り、全体では1,081百万円（前年同期比121百万円増）となりました。一般管理費は593百万円（前年同期比21百万円増）と前年同期を上回り、営業利益は487百万円（前年同期比100百万円増）となりました。営業外収益に計上したゴルフ会員権消却益は82百万円（前年同期比34百万円減）と前年同期を下回り、経常利益は571百万円（前年同期比74百万円増）、四半期純利益は379百万円（前年同期比69百万円増）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりです。

①保険事業

リスク管理の専門家としての強みを活かして、お客様に寄り添ったコンサルティングを積極的に進めるとともに、リスク管理パートナーとしての総合提案力の深化や、継続的な成長を実現し得る組織・体制の強化に努めました。

営業収益は、生命保険分野において新たにいただいたご契約が増加し、損害保険分野においても期日を迎えたご契約の更改が順調に進んだことから、前年同期比127百万円増加し957百万円となりました。営業原価は人件費等の増加を主因に前年同期を上回ったものの、営業総利益は401百万円（前年同期比109百万円増）となりました。

②不動産事業

テナント様・入居者様に「安心安全」かつ「快適」な空間のご提供に努め、賃貸不動産の入居率はほぼ満室状態で安定的に推移しました。

営業収益は、前年同期比14百万円増加し982百万円となり、営業原価は、前期に実施したエネルギー効率が高く環境に優しい空調機器への更新に伴う減価償却負担の増加等により前年同期を上回り、営業総利益は前年同期並みの586百万円となりました。

③千本松牧場

観光施設は、2026年4月に牧場リニューアルのグランドオープンから1周年を迎えました。引き続き多くのお客様にご来場いただき、牧場の広大な景観などを楽しんでいただいております。地域と連携した各種イベントの開催やSNS等での情報発信に力を入れたことに加え、多くのメディアで話題になったこともあり、前年同期比増収となりました。

牧場外のソフトクリームショップは、2025年11月に埼玉県羽生市のイオンモール羽生に6店舗目をオープンし、既存店を含めてお客様に大変ご好評をいただいております、前年同期比増収となりました。

外販営業は、地元量販店向け売上増加を主因として、前年同期比増収となりました。

酪農は、乳脂率・搾乳量のバランスの取れた運営や、新たに建設した哺乳ハウスの活用による飼養環境の整備に伴い、仔牛の販売が順調であったこと等により、前年同期比増収となりました。

この結果、営業収益は全体で2,193百万円（前年同期比344百万円増）となり、営業原価は施設のリニューアルに伴う費用計上等を主因に前年同期を上回り、営業総利益は196百万円（前年同期比61百万円増）となりました。

④ゴルフ事業

ゴルフ場の基盤であるコースコンディションの維持・向上に引き続き取り組み、ご来場者様から高くご評価いただきました。

また、2026年2月にはホウライカントリー倶楽部において、お客様に新しいプレイスタイルをご提供できる、フェアウェイ乗り入れが可能な一人乗りゴルフカート「G-CART」を導入し、順調に運営しております。2026年4月には「G-CART」のマスメディア向け試乗発表会を開催し、TV・雑誌・ネット等、各種メディアで大きく取り上げられました。

これに加えて、SNSやメール配信の積極的な活用、大学ゴルフ部の合宿や競技会の誘致、地元の企業様へのアプローチ等で、より多くの方にご来場いただけるよう取り組みました。

この結果、営業収益は623百万円（前年同期比32百万円増）となり、営業原価は、老朽化した受水槽の大規模修繕や「G-CART」の導入に伴う施設工事、プロモーション等に関わる費用の増加を主因に前年同期を上回り、営業総損失は102百万円（前年同期比49百万円悪化）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期会計期間末における総資産は、19,773百万円となり、前事業年度末比66百万円増加しました。

流動資産は、売掛金の減少を主因に前事業年度末比76百万円減少し、2,676百万円となりました。固定資産は、有形固定資産のその他に含まれる機械及び装置の増加を主因に前事業年度末比143百万円増加し、17,097百万円になりました。

負債は、流動負債のその他に含まれる未払金の減少を主因に、前事業年度末比289百万円減少し、9,551百万円になりました。

純資産は、四半期純利益の計上を主因に、前事業年度末比356百万円増加し、10,221百万円になりました。自己資本比率は51.7%と、前事業年度末比1.6ポイント上昇しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2025年10月31日の「2025年9月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,940,471	1,950,609
売掛金	413,533	316,852
商品及び製品	145,932	170,602
仕掛品	8,667	26,357
原材料及び貯蔵品	58,444	72,882
その他	186,069	138,833
貸倒引当金	△46	△41
流動資産合計	2,753,072	2,676,098
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,665,785	4,532,184
土地	9,147,406	9,147,406
その他（純額）	2,034,739	2,194,365
有形固定資産合計	15,847,931	15,873,956
無形固定資産	43,175	56,950
投資その他の資産	1,062,641	1,166,715
固定資産合計	16,953,748	17,097,623
資産合計	19,706,820	19,773,721
負債の部		
流動負債		
買掛金	138,485	131,965
未払法人税等	99,153	62,466
1年内返済予定の長期借入金	120,800	120,800
引当金	160,708	93,727
その他	988,260	981,176
流動負債合計	1,507,408	1,390,135
固定負債		
長期預り保証金	5,175,238	4,999,021
長期借入金	2,858,400	2,787,600
引当金	93,140	31,199
資産除去債務	104,350	105,106
その他	103,253	238,816
固定負債合計	8,334,382	8,161,744
負債合計	9,841,790	9,551,879
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,340,550	4,340,550
資本剰余金	527,052	527,757
利益剰余金	4,607,250	4,886,509
自己株式	△19,817	△16,528
株主資本合計	9,455,035	9,738,287
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	409,994	483,554
評価・換算差額等合計	409,994	483,554
純資産合計	9,865,029	10,221,842
負債純資産合計	19,706,820	19,773,721

(2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
営業収益	4,237,747	4,757,374
営業原価	3,277,859	3,675,730
営業総利益	959,888	1,081,644
一般管理費	572,606	593,662
営業利益	387,282	487,982
営業外収益		
受取利息	947	1,454
受取配当金	21,464	32,302
会員権消却益	117,475	82,506
その他	15,793	10,919
営業外収益合計	155,679	127,182
営業外費用		
支払利息	25,136	25,623
乳牛除売却損	18,222	17,352
その他	2,368	935
営業外費用合計	45,727	43,910
経常利益	497,234	571,253
特別利益		
固定資産売却益	299	140
特別利益合計	299	140
特別損失		
固定資産除売却損	54,541	14,883
減損損失	4,311	—
特別損失合計	58,852	14,883
税引前四半期純利益	438,681	556,509
法人税、住民税及び事業税	95,187	140,021
法人税等調整額	32,793	36,715
法人税等合計	127,980	176,737
四半期純利益	310,700	379,772

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	保険事業	不動産事業	千本松牧場	ゴルフ事業	計		
営業収益							
顧客との契約から生じる収益	830,076	12,039	1,840,313	591,041	3,273,470	—	3,273,470
その他の収益(注) 3	—	955,649	8,627	—	964,276	—	964,276
外部顧客への営業収益	830,076	967,689	1,848,940	591,041	4,237,747	—	4,237,747
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	—	3,786	—	3,786	△3,786	—
計	830,076	967,689	1,852,727	591,041	4,241,534	△3,786	4,237,747
セグメント利益又は損失(△)	292,378	585,984	135,004	△53,479	959,888	△572,606	387,282

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△572,606千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位: 千円)

	保険事業	不動産事業	千本松牧場	ゴルフ事業	全社・消去	合計
減損損失	—	—	4,253	—	58	4,311

Ⅱ 当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	保険事業	不動産事業	千本松牧場	ゴルフ事業	計		
営業収益							
顧客との契約から生じる収益	957,636	12,114	2,185,471	623,665	3,778,888	—	3,778,888
その他の収益 (注) 3	—	970,257	8,229	—	978,486	—	978,486
外部顧客への営業収益	957,636	982,371	2,193,700	623,665	4,757,374	—	4,757,374
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	—	3,213	—	3,213	△3,213	—
計	957,636	982,371	2,196,914	623,665	4,760,588	△3,213	4,757,374
セグメント利益又は損失 (△)	401,745	586,376	196,067	△102,545	1,081,644	△593,662	487,982

- (注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△593,662千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入等であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表に関する注記)

1 現金及び預金

前事業年度 (2025年 9 月 30 日)

現金及び預金のうち122,832千円は、当社が損害保険代理店として、保険契約者より領収した損害保険料を損害保険会社に納付するまでの一時預り金であり、資金使途が制限されており専用口座に別途保管しております。

当第3四半期会計期間 (2026年 6 月 30 日)

現金及び預金のうち110,856千円は、当社が損害保険代理店として、保険契約者より領収した損害保険料を損害保険会社に納付するまでの一時預り金であり、資金使途が制限されており専用口座に別途保管しております。

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年 9 月 30 日)	当第3四半期会計期間 (2026年 6 月 30 日)
建物	2,016,417千円	1,927,905千円
構築物	782	718
機械及び装置	5,648	4,911
土地	4,141,256	4,141,256
合計	6,164,104	6,074,791

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2025年 9 月 30 日)	当第3四半期会計期間 (2026年 6 月 30 日)
1年内返済予定の長期借入金	120,800千円	120,800千円
長期借入金	2,858,400	2,787,600
合計	2,979,200	2,908,400

(四半期損益計算書に関する注記)

減損損失

前第3四半期累計期間(自 2024年10月 1 日 至 2025年 6 月 30 日)

用途	場所	種類	減損損失（千円）
処分予定資産	千本松売店・レストラン等 （栃木県那須塩原市）	建物	1,937
		工具、器具及び備品	210
ヨーグルト生産設備	那須乳業工場 （栃木県那須塩原市）	建物	71
		機械装置	1,992
		ソフトウェア	98
合計			4,311

当社は、管理会計上の事業区分に基づく事業部を単位として資産をグルーピングしており、固定資産について、資産グループごと、また、遊休資産及び処分予定資産については個別物件単位で減損の兆候の有無を判定しております。

上記の処分予定資産については、老朽化した建物等の取り壊しの方針の決定により、ヨーグルトの生産設備については、製造縮小に伴い当該製品製造に係る設備が使用中止となったため、関連する資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として特別損失に計上しました。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため零としております。

当第3四半期累計期間(自 2025年10月 1 日 至 2026年 6 月 30 日)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	330,211千円	379,808千円